

新むつ小川原株式会社 第15回経営諮問会議

議 事 次 第

日 時：2015年4月24日（金） 12時00分～13時30分

場 所：経団連会館 5階 パールルーム

1. 開 会
2. 出席者紹介
3. 榊原座長挨拶
4. 経営概況報告
 - (1) 2014年度決算見込みについて
 - (2) 2015年度事業計画について
 - (3) 青森県原子力人材育成・研究開発拠点施設の整備について
 - (4) データセンターの立地について
 - (5) むつ小川原開発地区の視察会について
 - (6) むつ小川原開発地区の広報活動について
5. 意見交換
6. 閉 会

(出席委員等名簿)

座 長	榊 原 定 征 (日本経済団体連合会会長)
座長代理	樋 口 美 雄 (慶應義塾大学教授)
委 員	遠 藤 哲 哉 (青森公立大学教授)
	杉 本 康 雄 (青森経済同友会代表幹事)
	戸 田 衛 (六ヶ所村長)
	沼 田 廣 (青森県経営者協会会長)
	橋 本 徹 (㈱日本政策投資銀行代表取締役社長)
	本 田 勝 (国土交通事務次官)
	三 村 申 吾 (青森県知事)
	若 井 敬 一 郎 (青森県商工会議所連合会会長)

(新むつ小川原株式会社)

代表取締役社長	永 松 惠 一
代表取締役専務	原 幸 宏
取締役青森本部長	三 上 雄 二
監査役	川 俣 尚 高

2015年4月24日

第15回 経営諮問会議 報告

新むつ小川原株式会社
代表取締役社長 永松恵一

第15回経営諮問会議 報告

新むつ小川原株式会社第15回経営諮問会議が4月24日(金)経団連会館で開催されました。その概要につきましては以下のとおりです。

報告事項

1. 2014年度決算見込みについて
2. 2015年度事業計画について
3. 青森県原子力人材育成・研究開発拠点施設の整備について
4. データセンターの立地について
5. むつ小川原開発地区の視察会について
6. むつ小川原開発地区の広報活動について

これに対しまして、各委員から以下のとおり意見・助言を受けました。

1. このたび、米倉前座長の後任として座長に就任しました、榊原でございます。委員の皆様方のご協力を得て、経営諮問会議座長としての職責を全うしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。
ご案内の通り、新むつ小川原株式会社は、本年8月で設立15周年を迎えます。国、青森県、六ヶ所村、青森県財界をはじめとする関係者の皆様のご支援、ご協力に、改めて心より感謝を申し上げます。むつ小川原開発地区は、核融合関連施設、環境科学技術研究所、さらには世界初の大容量蓄電池併設型の風力発電などが立地し、また、原子力人材育成・研究開発拠点の建設準備が進められているなど、未来の日本を支えるイノベーションの重要な拠点であります。
加えて、むつ小川原開発地区には、原子燃料サイクル施設、国家石油備蓄基地をはじめ、多くのエネルギー関連施設が立地しており、将来にわたって、わが国のエネルギー拠点として、国民生活や企業活動を支えていくことが期待されます。
新むつ会社には、今後とも、国、青森県、六ヶ所村をはじめ関係の皆様のご指導とご支援をいただきながら、むつ小川原開発地区の重要性につきまして、国民や企業の幅広い理解を得るとともに、企業立地を推進し、地域への貢献を果たすよう、積極的に取り組んでいきたいと思っております。
本日は、新むつ会社の経営状況や事業方針等につきまして説明をお聴き取りいただいた後、委員の皆様方から忌憚のないご意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。
2. 新むつ小川原株式会社が安定的な経営を維持されていることにつきましては、永松社長はじめといたしまして、経営陣の皆様方のご尽力そして委員各位のご支援ご協力の賜と深く地元として感謝申し上げます。

県としても、むつ小川原開発地区における先進的なプロジェクトの実現に向けて様々な取り組みを今続けているところでございます。例えば、原子力関連施設の立地環境を活かしました原子力人材育成・研究開発拠点施設につきましては昨年度から事業着手をしたところであり、平成 29 年度の開設に向けて着実に整備を進めて参りたいと考えております。また、冷涼な気候、広大な用地、堅固なしっかりとした岩盤などの強みを活かし、雪も使い寒い気候を最大限使える超高効率な寒冷地型データセンター、こういった新しい試みも先日着工いたしまして 11 月の竣工が予定されております。さらに、国家戦略特区に提案いたしました浮体式の LNG 基地とリチウム回収技術、この二つの実証プロジェクトにつきましては誠に残念ながら特区指定には至りませんでした。国及び関係機関の協力を得ながら実現に向けた検討を進めていきたいと考えております。特に浮体式の LNG 基地につきましては、国土交通省におかれまして今年度から調査検討事業を進めると伺っております。県といたしましても連携して取り組んでいきたいと考えておりますので本田事務次官におかれましては格段のご配慮をお願いいたします。

そして、榊原会長はじめ委員の皆様方におかれましては、むつ小川原開発推進のための様々な取り組みに対しまして引き続きのご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。また、新むつ小川原株式会社におかれましては国、県、六ヶ所村および経済団体と密接な連携と協調のもと更なる分譲の促進につきまして、そのことによって地域の振興が図られるよう私からお願いする次第でございます。

3. ただ今ご報告のありました経営概況についてであります。9 期連続の黒字となりましたことは大変喜ばしく、永松社長はじめ役員、社員の皆様方に心から敬意を表します。今後とも安定的な経営が継続されますよう切に願っており、企業進出等が図られ雇用の創出が図られるよう、当村といたしましてもできる限り協力して参りたいと考えております。

現在、むつ小川原開発地区においては、先日 21 日にデータセンターの立地に伴う安全祈願祭が行われたほか、国内最大級の太陽光発電施設が本年 11 月の完成を目指して工事が順調に進んでおり、また、青森県原子力人材育成・技術開発拠点施設が平成 29 年度開設に向けて進められており、地域経済の活性化および地域振興に大いに期待しているところでございます。

村における今年度の取り組みとして、平成 28 年度から 10 年間の新たな村の方向性を定める第四次六ヶ所村総合振興計画を今年度中に策定することとしており、新むつ小川原開発基本計画との整合性を保ちつつ、また地方における重要な課題である人口減少対策などを含めた地方創生総合戦略を合わせて策定することとしております。

村としての懸案事項でありますホテルの誘致についてであります。関係各位と連携を図りつつ是非とも実現させたいと考えております。何れにいたしましても村内のインフラ整備につきまして課題が山積しておりますが、着実に実現させるためには皆様方のご支援ご協力をいただかなければなりませんので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

4. 平成 26 年度の経営概況を聞きまして、前年度から比べても大幅な増収増益ということで敬意を表したいと思います。平成 27 年度も引続き大いに企業誘致を進め、分譲あるいは賃貸のさらなる拡大が望まれるところでございます。

そのためには、道路や港湾あるいはホテルの建設も含めたインフラ整備が更に大切な事ではないかと思っております。特に、道路に関しては下北半島を南北に縦貫する下北半島縦貫道路を進めておりますけれども、途中までで全線開通とはなっておりません。これが、むつ市まで到達いたしますと観光の面でもそ

してまた多くの方々が六ヶ所にも行きやすくなりますし、この地域の開発発展には非常に大きなインパクトを与えることとなります。また、いざという時の避難道路としてもこれは早急に前線開通を進めるべきではないかと思えます。それと、太平洋側を走っております国道 338 号線、これも八戸港と六ヶ所を繋ぐ重要な道路ではありますが、産業道路としては非常に狭く、やはり、これのバイパスの建設も国においてぜひ進めてもらいたいと思えます。また、港湾はむつ小川原港がございしますが、これは原燃にもあるいは国家石油備蓄基地においても非常に有効な港ですけれども、今後、LNG の話も出ておりましたし、あるいは水素を使ったエンジンがこれから車にも活用されていくであろうし、水素を蓄える基地としても六ヶ所村は非常に有効な土地だと思えますので、そのためにも港湾整備が必要だと考えております。

ホテルは必要だと村長さんも仰っておりますが、私もそう思います。六ヶ所には長期滞在する研究者の方々も多くおられますし、エネルギーパークというのもございします。日本国内だけでなく全世界からも注目されている地域だと思えますので、そういう方々が滞在するにしても今の民宿程度のホテルでは受け入れることが出来ませんので、産業観光的な面からもホテルをなんとか考えていただきたい。県におきましても、様々な誘致企業のための助成措置を行っているが、ホテルというのは補助対象業種の中に入っていないので、こういうのも入れていただきたいと思えます。

榊原会長まだ一度もいらしたことがないということなので、是非、今年度中に視察をしていただいて、できれば出身母体の東レの事業である炭素繊維工場の誘致を図っていただければ、地元の雇用にも繋がりますのでぜひご視察いただければと思えます。

5. 経営概況報告で 2014 年度は前年度と比べて倍増の増収増益と内容の濃い決算ということで喜ばしいことだと思えます。今まで大変だったのでそれについては敬意を表したいと思えます。これからも、安定的な経営状態が見込まれますので、ここから 10 年くらいは将来の為にしっかりとした経営基盤をつくっていただきたい、或いはインフラ整備をしていただきたいと思えます。今やらないともうやるチャンスがないと思えます。

先日、この地区を観てきました。その時の感想を踏まえて 2～3 言いたいと思えます。

先ほどから出ている道路と港湾、これはしっかりと早めにお願ひしたいということ、港湾は八戸港の補完ということで、これは以外と大事かと思えます。港の整備、機能が出来上がっておりますし、海上風力発電など新しい事業の展開もみえています、これはひとつのポイントだろうと思えます。

道路の整備の中で、新幹線で青森まで来ると七戸十和田駅がございします。むつ小川原開発地区に入るためにはいろいろな手段があります。飛行機ですと三沢便は便数が少ないし天候状況では下りないこともありますので、通常で考えると七戸十和田駅で降りてそこから車で移動するというのが時間的にもロスなくストレートに行けるはずですが、そこに通ずる 394 号線、ここの整備が殆どされていない。距離が一番短い、いろんな意味でここの道路の重要性を再認識して重点的に整備していただきたい。

車でむつ小川原開発地区に入ると広大な土地に立派な建物も建ってますけども、ホテルが無い。ホテルが無いというのは過疎地でイメージがすごく悪いので、ホテルの誘致については積極的にやっていただきたい。ただ来てくれといっても当面採算は見込めませんので、県も六ヶ所村も或いは会社も知恵を出して助成金や何か補助してやらないとホテルは絶対来ないと思えますのでしっかりと検討していただきたい。

現地に行ってみるとというのが、一番すごくて、太陽光パネルの広大な広がり、

風力発電の風車の数、色々なエネルギー基地が沢山あって、高台から見学できる施設も出来るということで、観光産業としても十分に見せるものがあります。企業誘致の対象の会社の方に見せるということでは無く、小学生、中学生に将来のエネルギーを勉強させるためにも風力、太陽光、原子力などをいわゆる修学旅行対象のコースとして整備をしながらPRすることが重要。もう一つは受け入れる体制、今は受け入れる体制が出来ていませんし、説明する人がいない。或いはバスも今は高いと聞いています。そういったことを整備しながら小学生、中学生に日本のエネルギーの将来をどうするかというものを勉強するには、六ヶ所村の周辺が一番だと思います。もう一度、観光産業の面から見直しながら力を入れて貰えればと思います。誘致企業も太陽光発電施設では雇用増が見込まれないという事業が増えていますけれども、やっぱり雇用を見込める企業誘致に力を入れていかなければならないだろうと感じる次第であります。

6. 先ず、むつ小川原の開発につきまして榊原座長ほか委員の皆様、大変お世話になっております。冒頭でお礼を申し上げたいと思います。
本日、諮問会議で会社の前年度決算の見込みなどご報告いただきましたが、先ずは9期連続で黒字を維持しておられることにつきまして永松社長はじめ経営陣の皆様には国土交通省としても敬意を表したいと思います。
政府の中で昨年4月に閣議決定をされました「新エネルギー基本計画」において原子力発電の依存度を可能な限り低減することとされておりますが、一方で使用済み核燃料の再処理あるいはプルサーマルの推進が織り込まれております。むつ小川原開発地区は我が国のエネルギー政策にとって極めて重要な地域で核燃料サイクル政策の中核となる地域として、また大規模な風力発電あるいは太陽光発電といった再生可能エネルギーの先進地として極めて重要な地域と認識しております。また、最近では先ほどご説明のありましたデータセンターあるいは洋上風力発電の立地が進み、さらに浮体式LNG基地の構想などこれから今までの開発地区の景色を一変させるようなプロジェクトの進展も期待され、関係者のご尽力を大変心強く感じております。
また、周辺ではすでに東北新幹線が開通し、さらに下北半島縦貫道路あるいは東北縦貫自動車道の八戸線などは整備進んでおりますが、今日お話の出ていますような、さらに続く関連する社会資本の整備にも力を注いでまいりたいと思っております。
今後は、核融合エネルギーに関する国際共同研究の拠点としての整備が進展し、また原子力分野の人材育成や研究開発の分野でもこの地域が拠点としての役割を担うことを期待しております。引き続き政府としては関係機関あるいは地元の自治体の皆さんと協力しながら、むつ小川原開発の新たな展開に力を尽くして参りたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。
7. 新むつ小川原株式会社への経団連の榊原会長をはじめ関係者の皆様の日頃のご支援・ご指導に対し、私からも感謝申し上げます。
さて、先ほど決算のご説明にもありましたが、平成26年度は太陽光発電施設向け賃貸収入が通年寄与したことのほか、企業誘致環境は引き続き厳しいながらも、新たにデータセンターの分譲が行われ6年ぶりに分譲収入が2億円を超えるなど、増収・増益となり経営基盤の安定化がなされました。こうした実績は、永松社長をはじめとした関係の皆様のご努力の賜と敬意を表したいと思っております。むつ小川原地域には、原子燃料サイクル施設、核融合の国際的な研究施設といった我が国のエネルギー政策にとって重要な施設が集積するとともに、国内でも有数の規模となる風力・太陽光発電施設が整備されております。また、本年3月には新たに洋上風力発電の事業予定者が決定したほか、むつ小川原港を活用した日本初の「浮体式LNG基地構想」の発表や、世界初の「海水からのリチウム

回収技術」の開発など、多様なエネルギー産業の集積に資する新たな動きがあった一年であったと認識しております。平成29年度には原子力人材育成・研究開発拠点施設が運営を開始する予定と聞いておりますが、この施設を呼び水としてエネルギー産業のさらなる集積への取組と同時に、研究開発等を行う専門的な知識を持った高度人材や、さらには関連する研究開発施設の誘致に向けた取組が重要であると考えております。

そのためには、かねてより議論のある交通インフラの充実や宿泊需要への対応、生活利便性の向上など、この場にいらっしゃる皆様が一枚岩として青写真を描き、実行に移していく必要があると認識しております。

本格的な人口減少社会が到来するなか、「地方創生」が重要な政策課題の1つとなっています。新むつ小川原株式会社に於かれては、経営基盤の安定化が図られた今こそ、企業立地の推進を含め、地域の成長・発展に貢献するプロデューサーとしての役割を積極的に担って頂きたいと考えております。

日本政策投資銀行といたしましても、引き続き、むつ小川原開発地区のプロジェクトに対しまして、できる限りの知見を提供させていただき、経済界とも手を取り合いながら、しっかりと応援して参りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

8. 子供の教育のために東北、特にこの我が青森県の太平洋側というのは非常にコンパクトに施設が集まっており、我々も研修でいろんな方をご案内しますが、最低一泊は必要です。八戸から入るという方法もあります。八戸から入りますとLNG使った最新式の火力発電がございますし、そこから北上いたしますと太陽光パネル、風力発電、東通の原子力発電所とございますので、そのあと出来れば、六ヶ所で原子燃料のリサイクルをして出来るMOX燃料を使う予定になっている大間まで脚を延ばしていただきまして、MOX燃料で核燃料はうまくリサイクルするというのを観ていただく。それと、まだ現物は入っていないけれども、中間貯蔵施設が完成している。そういう設備が整っておりますので、教育の一環の流れとしてお見せして、子供達にしっかりした認識を与えるということとはとても大事なことだと思っております。

太陽光パネルの設置につきましては、青森は雪が降りますので架台は少し高く作っている。その下には牧草も育てていると思いますが、そこで農業ができないか、あちこちでパネルを作っておりますけれども、その下の場所をうまく活用する方法については是非ともご検討ないしは何か企業化ができないか、一番は葉っぱを食べる牛とか羊がいいのかなと思いますけれども、冬の間は餌の問題もあります。組み合わせをうまくやって低廉なタンパク源を作るということをやれば、すばらしいのではないかなと思っておりますので、ひと頑張りして貰えればと思っております。

ITERの原型炉の開発について2017年頃には誘致の手を挙げないといけないということになっておりますが、これは国家プロジェクトでございますので、ヨーロッパも手を挙げるでしょうし、我が日本国はどうするのか手を挙げるのか挙げないのか、部品作りに徹するのか、そのあたりの進路については議論をしていただく必要があります。我が日本でやる場合には、この六ヶ所が一番いい場所だと思いますし、候補地としては六ヶ所を推薦したいと思っておりますので、ご支援方宜しくお願い申し上げます。

9. 冒頭で永松社長より経営概況の報告がありました。そして各委員の皆様の中からご意見があったように順調に経営が行われているということに対して敬意を表したいと思います。

この地域、次世代のIT開発の世界的拠点になる。実体的にも潜在的にもそうだと思うのですが非常に重要なエリアだと思います。人材開発をやっていく

えでも重要な地域になってきているだろうと思います。そのことを推進して行くためにも、人々が生活をして行くインフラの整備は十分やられていると思うのですが、更にやっていくことが重要だろうと思います。先ほど、ホテルのこと道路の開発、インフラの話が出ておりましたけれども、人が住むという観点に立った整備を加速させて行くことがとても大事ではないかと感じております。先日、スイスに行って参りましたけれども、青森県でもモデルにしている国でございます。居住環境が優れているので、グローバル企業の本社が立地しています。奥さんやお子さん達が住みたいという感じる街を形成していく努力をして行くことが、様々な企業や人々が来る大事なインフラになっていくのだと感じました。六ヶ所村も同じようなことが言えるのではないかと思います。

六ヶ所村には様々な国から技術者や研究者が来ています。インターナショナルスクールもございます。国際化時代の中でグローバルな人材をどう養成していくかということが非常に重要です。英語も需要ですが、ヨーロッパに行きますとフランス語であったりドイツ語であったりイタリア語での会話になります。これも、スイスに行った際にサンスターの本社でお話を聞いたのですが、やはり込み入った話となるとフランス語であったりドイツ語であったり地元の言葉になります。幸い六ヶ所ではフランスと研究を行っていて技術者がおります。中々、フランス語やドイツ語など青森で習おうと思ってもネイティブから学ぶ機会が無いのが現状でありますので、英語以外のネイティブの方がいることは強みと思います。

先端的なエネルギー基地、核燃料サイクル、風力、蓄電装置、核融合の実用化に向けた研究など様々な分野が集合しております。現在、東北大学を始めとして様々な大学と連携していると聞いておりますけれども、大学の立場から現在のエネルギーそれから電力の生産、政策を考える上で学ぶべきことが大変多くございます。国家プロジェクトで進めておりますのでセキュリティの問題等あると思いますけれども、広く現場で考える機会を提供していただけないかなと思います。我が大学は経営経済、地域の問題を取り扱っております。社会科学の分野でございますけれども、これから技術、自然科学と合わせてマネジメントの問題、社会科学の側面から十分に検討するということが非常に重要になってきていると思いますので、自然、社会科学合同で検討できる機会が増えてくると感じております。

福島事故以来、エネルギー政策への関心が非常に高まっております。福島では廃炉に向けた取り組み、また放射性物質の処理また中間貯蔵施設の設置について大きな課題がございます。六ヶ所村の経験は福島にも非常に有益と思っております。それは、世界の原子力発電所地域あるいは、エネルギー政策に関心をお持ちの方々に多くの知見を提供できると思っております。福島では、この度の事故の教訓を大学と連携しながら分析して世界に向けて発信しておりますけれども、青森でもそれは出来ると思っております。つまり、関連する大学や研究機関と連携しつつ、高度な実践的学術研究機関の集積を行うことが、出来れば大変に有利なことだと感じております。

10. 先ほど、経営概況のお話をお聞かせいただきまして 9 年連続黒字ということで安心してすると同時に、やはりそれに対する相当の苦労があるのだろうなと思いつながら聞いておりました。

一昨日、現地を訪問させていただきまして、私の感じたことを少しお話させていただきたいと思っております。やはり、広大な敷地に科学技術の粋を集めているということで、特に安全性というというものに相当の神経を使った実施ということが行われていると思っております。

特に風力発電、ソーラーが相当に設置されているということでありまして、今後の日本のエネルギーのバランスの問題も含めたビジョンというものの先駆け

になっているのだろうと思いながら、また、そうあって欲しいと思った次第でございます。その中で、行ってみて感じたことは、科学技術が凄いなと思いながらも、人の姿が見えないなというのを実感として思いまして、なんとか人を呼び込めるようないろんな施策というものを考えていく必要があるのではないかと。先ほど観光というお話もございましたが、この地域に行きますと日本の電力の今後をどう考えていくのかということを考えられるような状況になっているかと思いますが、是非とも小学生、中学生も含めて、こういった観光に訪れそして日本の将来を考えて欲しいと思っておりました。その点から先ほどのホテルの話もありましたがハード、インフラそれと同時にソフト面の充実というのをいかに図るか、これは科学技術とは関係ないかもしれませんが、長芋の焼酎、これが非常においしいと、私は飲んでいないので解らないのですが、おいしいと評判になっているということでありまして、ただ生産量が足りないためにすぐに売れ切れてしまうということも聞きました。是非こういったものを村がやってらっしゃるということでございましたので、生産量を増やして、そして観光に来た小学生に売るわけにはいきませんが、そういったもので安全な町だというようなPRにも使えるのではないかと思いますので、そのようなことを進めたらどうでしょうかと思いました。

二番目に、先ほどもご説明のありました人材育成・研究開発拠点としての形成を目標に進めていく。おそらく順調にいけばこれによって更に長期滞在者が増えていくのだろうと思いますが、同時に私も「まち・ひと創生会議」の委員をやっておりまして、あるいは「日本創成会議」に携わり、どのように移住とか定住というものを進めていくのだろうか、滞在ということで、また帰りますということではなくて、そこで暮らしの基盤づくりというようなものを作っていくということも必要になってくるのではないかと。そうすることが、やはりそこにおける人材の形成といったことに繋がりますし、また広い意味あるいは長い意味においてこの地区を発展させていく持続可能にして行くということにおいても、そういった問題は重要と思っております。 インターナショナルスクールを觀させていただいて、お一人の女性、国籍はわかりませんが、金髪の女性の方がおりました。その人が歩いている姿を見て、こういったところに恐らく日本の将来というのは、こういう方向を向いて、こういう人たちが沢山ここに住むということによって開発して行くのかなと思いました。かつて「つくば」がそういった状況というのを狙って立ち上げてきたのですが、最初はなかなかアカデミックの世界と地元住民との間に軋轢があって、アイソレーションはかなり他からは隔離されてる社会だったということですが、今となりますとうまくいくようになってくる。こういったところを参考にしながら、今後考えていくということが必要なのかなと思いました。

最後にはやはり雇用の問題だろうと思います。人を呼び込むというところでも雇用の創出、これをいかに進めていくか、そういったものができるような企業誘致というようなことを進めたらどうでしょうかと思いました。

以上